

議 会 報 告 第44号



(ホームページもご覧下さい <http://www.ojima-shinichi.com/>)

筑西市下野殿 801-1 TEL0296 (24) 8951

筑西市議会議員 小島 信一

3月定例会より 報告 (令和4年第1回定例会)

令和4年4月5日発行

令和4年度予算成立

一般会計	446億5千万円	(前年比0.2%減)
特別会計	232億4千万円	(1.2%増)
水道事業会計	31億2千万円	(1.3%減)
下水道事業会計	27億8千万円	(6.8%増)
農集排事業会計	10億9千万円	(1.5%増)
合計	764億3千万円	(前年比0.5%増)



歳入の主なもの

市 税	148億5千万円	(前年比6.0%増)
地方交付税	73億円	(5.8%増)
地方消費税	23億円	(7.0%増)
国庫支出金	71億2千万円	(4.5%増)
県 支出金	34億8千万円	(1.6%増)
繰 入 金	14億4千万円	(98.1%増)
市 債	44億8千万円	(41.8%減)

◎令和4年度予算(歳入)の特徴

- ・大幅増加
 - 1 市税収入予算が6%増
昨年度見込んだコロナ禍による経済縮小幅が予想外に小さかった。その修正。特に法人税が堅調であった。
 - 2 地方交付税が5.8%増
交付税財源となる国税において上記1と同じ理由。
 - 3 地方消費税が7%増
地方消費税においても上記1と同じ。
 - 4 繰入金金が98.1%増(財政調整基金からの繰入金)
上記1, 2, 3の増があったが、それ以上の義務的経費の歳出増が見込まれる。筑西広域行政の負担金で6億強の増などがあり、これを補う繰り入れ。
- ・大幅減
 - 1 市債発行が41.8%減
昨年度は、特に明野地区の義務教育学校建設予算に20億円、協和中学校のプール建設予算に5億円の起債があり膨らんでいた。今年度は通年の起債額。

◎令和4年度・話題の事業

- ・下館駅周辺賑わいづくり調査検討事業・・・250万円
中央図書館の東側広場、アルテリオへの歩行者利用客の増加を推進するもの。しかし困難が予想される。



- ・サテライトオフィス等誘致推進事業・・・2100万円
都心または県外の企業のサテライトオフィスの需要を喚起するもの。中心市街地の空き店舗を利用することで賑わいづくり、移住人口増加、経済活性化を図る。しかしながら予算額が小さすぎる。
- ・花火大会開催事業・・・2500万円
今年度こそ本格的な大会にしたい。協賛歓迎。

- ・下館庁舎解体事業
(4年度) 5億9千万円
(3、4年度総額で6億1千万円)



- ・定住促進住宅取得支援
(継続) 1億3千万円

- ・明野五葉学園整備事業
(4年度) 13億6千万円
(3年度は23億円)
(3、4、5年度総額で38億円)



- ・板谷波山生誕150年記念事業
(4年度) 2,400万円 (3、4年度総額3200万円)

- ・ふるさと納税推進事業 (継続) 3億1900万円

- ・公共交通対策事業(継続)
(4年度) 1億2千万円



前ページの続き 令和4年度話題の事業

- ・企業版ふるさと納税推進事業・・・100万円

令和3年度の実績は12社で約1000万円の寄付額。

事業開始初年度ということもあり参加企業は少なかったが4年度は倍増の期待ができる。



- ・DX推進事業1400万円（新規重点プロジェクト）

DX推進支援委（業務委託）

RPA（ロボット自動処理）導入・・・ライセンス購入
 オンライン会議対策・・・ZOOMライセンス利用料
 行政手続きのオンライン化で市民に利便性を提供

- ・新型コロナワクチン接種事業・・・3億4千万円

4年度のワクチン接種の特徴

- ① 未成年者 ②3回目接種者
- 特に11歳以下の小児接種には配慮が必要。



その他の高額事業

- ・西部医療機構（西部メディカルセンター）運営支援事業・・・11億円
- ・学校給食提供事業・・・4億円
- ・玉戸・一本松線・・・3億6千万円
- ・誕生祝い金事業・・・1億1千万円
- ・保育所等（23施設）運営補助・・・30億6千万円

一般質問

◎公共交通について・・・「のり愛くん」の拡張を

小島質問：バス路線は同一時間帯に利用者が集中する場合に向いている。広域連携バスは通勤通学の需要を取り込み成功している。1日の利用客は平均110人。一方、地域内循環バス、道の駅循環バスは利用者が集中しない。1日30人程度。費用対効果から判断し廃止も検討すべきではないか

企画部長：地域内循環バス、道の駅循環バスの最低目標人数を60人、75人と設定している。これをクリアできなければ廃止も検討する。ただ、「今は必要ないが将来的には必要」という市民も多く、今後さらに進む高齢化を考慮し、今後5年間は利用できる環境を維持したい。

小島質問：これまでバス路線を利用できなかった市民や廃止するバス路線の利用者は、「のり愛くん」を利用

することが効率的と考える。集中しない散発的な少人数の移動需要に低料金で応えるのは「のり愛くん」しかありません。しかし現在1日当たりの利用客が170人で予約が取りにくい。便数が10台では潜在的な需要は吸収できない。現在の運行主体をもう少し専門性の高い民間のデマンド交通運行事業者に変えることを検討する時期に来ているのではないか。

市長答弁：のり愛くんは

利用者も多く順調に進んでいるが14年も経過するので不都合も発生する。改善すべきは改善して、利便性の高いデマンド交通となるよう考えていく。



議案質疑

◎西部メディカルセンター（西部医療機構）の第2期中期計画について――

小島質問：中期計画は今後4年間（R4, 5, 6, 7年度）の病院運営計画です。第1期計画と実績を踏まえて作成します。私の印象は、中核病院としての守備範囲が現実に合わせて縮小したように感じます。いくつか具体的に質問します。まず救急搬送について、第1期では受け入れ件数2500件を目標値としたが第2期では数値が記載されていない。なぜか

保健福祉部長：救急搬送についてはコロナ禍もあり件数の変動が大きく、搬送依頼に対しどれだけ受け入れる

かつまり応需率を指標とすることを考えた。

小島：受け入れ外来患者数、入院患者数の第1期での目標値は434人、224人。第2期でのそれは350人、200人。外来で84人減、入院で24人減。なぜか。保健福祉部長：コロナ感染症の収束が不透明であり、そのためコロナ禍を前提とした数値目標となっている4年間の計画であればアフターコロナを見据えた数字であるべき。他の項目でも同じことが言える。

医業収益を見ると第1期では年間46億円、第2期では47億円。1億円増だが、公的財政負担が増えていく。大きく改善するには医師・看護師の増強が必要。